

香港初中等日本語教育の難点を克服する — 教材の使い方及び教え方についての提案 —

2010.7.10@ 香港日本語教育研究会

阮 亦光 / 向日葵出版社

■ 初中等日本語教育の難点

■ 初中等日本語教育に役立つキーワード

	キーワード	対応策
学生側	◎ おもしろい	※ 絵が多い (教材)
		※ カラフル (教材)
		※ 遊ぶ感覚の授業 (教え方)
	◎ 役立つ	※ 身近なものを利用する (教材)
		※ 見えそうな場面を利用する (教材)
	◎ 気楽	※ 覚えやすいように学習させる (教え方)
※ 教室である程度覚えるようにする (教え方)		
先生側	◎ 学習カリキュラム	※ 全体のカリキュラムを把握する
		※ 学生のニーズを理解する
		※ システムマッチックなカリキュラムを作成または利用する
	◎ メリハリのある授業	※ いろいろな活動を利用する
	◎ 学生の負担にならない範囲	※ 教えすぎないように (フォローすることも考慮)
	◎ 学生が気づくように	※ 授業の時学生が考えるようにする
		※ 授業の時学生がちょっと調べるようにする
※ 調べるプロジェクトを学生にさせる		

■ 対応策のご提案

■ 参考書のご紹介

香港初中等日本語教育の難点を克服する

教材の使い方及び教え方についての提案

2010.7.10@香港日本語教育研究会
 阮 亦光 / 向日葵出版社

初中等日本語教育の難点

- コースの時間数が少ない
 - クラスコントロールが難しい
 - 学生が集中しない
 - 仮名ばかりで退屈に覚える
 - 教材がない
- などなど

初中等日本語教育に役立つキーワード

	キーワード	対応策
学生側	◎ おもしろい	※ 絵が多い (教材) ※ カラフル (教材) ※ 遊ぶ感覚の授業 (教え方)
	◎ 役立つ	※ 身近なものを利用する (教材) ※ 使えそうな場面を教える (教材)
	◎ 気楽	※ 覚えやすいように練習させる (教え方) ※ 教室である程度覚えるようにする (教え方)
先生側	◎ 学習カリキュラム	※ 全体のカリキュラムを把握する ※ 学生のニーズを理解する ※ システムマッチングなカリキュラムを作成または利用
	◎ メリハリのある授業	※ いろいろな活動を利用する
	◎ 学生の負担にならない範囲	※ 教えずぎないように (フォローすることも考慮)
	◎ 学生が気づくように	※ 授業の時学生が考えるようにする ※ 授業の時学生がちょっと調べるようにする

対応策のご提案

例の出典: 香港少青日語 入門1

2010年7月9日現在制作中



著者:
 上田 早苗
 野口 壽美
 阮 亦光
 イラスト・デザイン:
 阮 亦光

※ 絵が多い ※ カラフル

第1課のレイアウト:



※ 遊ぶ感覚の授業
⇒教室活動を多く利用する

例: 第1課の教室活動カード(ひらがな)



カードの使い方により、
・定着させる
・聞く練習
・読む練習
などの効果が求められるほか、
ゲームができる

※ 身近なものを利用する
⇒親しみのあるもので興味を引く
⇒勉強したのから他のものを連想するように

例: 第1課の教室活動



※ 使えるような場面を利用する
⇒勉強意欲が高くなる
⇒達成感がある

例: 第1課～第4課の会話



第1課会話



第2課会話



第3課会話



第4課会話

※ 覚えやすいように学習させる

⇒教材をステップバイステップで
学習できるように
アレンジして教える

⇒学生の能力を考慮した練習をさせる

※ 教室である程度覚えるようにする

⇒教室活動をたくさん取り入れる

⇒練習させる内容のバランスに
注意を払いながら
発話回数を多くする練習をさせる



第1課の教える手順の例:

- 1) あ～お
あ～おを覚える(読み方、書き方、聞いて分かる、見て分かる)、
あ～おで構成した語彙
- 2) か～こ
- 3) あ～こ
- 4) ん、あん～こん
- 5) 50音図の仕組み(目標:50音図を見ながらおおざっぱに仮名が読める)
学生に訓読みの名字を一人ずつ配布して、学生が自分で読み方を調べる
(次から、この段階では文字に頼らずに音で学習する範囲になっている)
- 6) 基本練習
(「わたし」「ぼく」の導入も)
- 7) 応用練習
(「すみません、お名前は?」の導入も)
- 8) 会話
(「はじめまして。」「宜しくお願いします。」の導入も)

- ※ 全体のカリキュラムを把握する
 - ・だれでも学生にたくさん教えたいのですが、教える範囲の把握がとても大切
- ※ 学生のニーズを理解する
 - ・学生のニーズに答える教材が、効果が高くなる
 - ⇒使っている教材から発展して教える
例えば異文化理解の要素を取り入れる
- ※ システムマッチックなカリキュラムを作成または利用する
 - ⇒学生が続けて勉強できることを考慮する

- ※ いろいろな教室活動を利用する
 - ⇒こどもを教える場合、5分ごとに違う活動をするようにと覚悟しておきましょう
- ※ 教えすぎないように
 - ⇒学生の勉強ごとが多い場合、負担にならない程度の範囲を教える
 - ⇒教室で覚えられる程度が目安

- ※ 授業の時学生が考えるようにする
- ※ 授業の時学生がちょっと調べるようにする
- ※ 調べるプロジェクトを学生に与えてみる

参考書のご紹介

※ 教室活動の参考と素材



978-4-88319-021-8



978-4-904575-04-8



978-4-88319-528-2



978-0521397810



978-0521691345

※ 教え方



978-4-89476-304-3



978-4-89476-306-7



978-4-904575-04-8